

コロナ禍の支部だより特集【第2報】

第四回新日美展の中止は大きな痛手ですが、この節目こそ大切な一歩。今回の「新日美ネット会員展」は皆様の彩々、動向など楽しい企画で、会員相互の和が拡がる事を願います。



石見ケーブルビジョンの取材を受ける清水支部長
令和元年6月28日 島根支部展会場にて

東京東支部 支部長 張 京浩

新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、ご来場者様の健康・安全面を第一に考慮した結果、東京東支部展を中止とさせていただきます。楽しみにして下さっていた皆様には、ご迷惑をおか

けて誠に申し訳ございませんでした。コロナの影響により企画した支部活動もできていません。

あらゆる美術作品は何かを表現しなければなりません。これはまず第一に、作品内容がたんに個物を示すだけであってはならないことを意味する。しかし、このような定義はわれわれの目的には大きすぎる。それは「表現」という観念を拡大して、あらゆる種類のコミュニケーションをふくませることになる。

我々はよく、「自分の感想を表現する」ということがある。しかし芸術的表現はもっと特殊なものである。それは資料の伝達が「体験」をうみだすこと、いいかえれば、知覚形態をつくっている力がいきいきと働くことである。



平成31年度決算報告
及び作品への講評会

委員コラム

コロナにも克つ 自分にも克つ

大石 亨

私はもともと絵画とは政治的、社会的圧力の影響を受けてはいけないものと考えていた。これをくつがえしたのが昨年の新型コロナウイルスの感染である。

昨年一月、中国で発生した感染は韓国、日本に飛火し、ヨーロッパ諸国に、さらには米国、ブラジル、印度へと世界中に拡大した。各国は矢つぎ早に非常事態を宣言、強力な防止対策に打って出た。以後、防止対策と経済再活を繰り返してきたものの結局、イタチゴッコに終わった。

そのあげく年末にかけて二波、三波の感染襲来でヨーロッパ各国では最盛期以上の感染者が続出、米国では大統領の交替以後、一日一〇万人を超える新患が出るという状況。

そこで各国は一転、最高度の強力な防止策をとった。日本はオリンピックの再会を控えているだけにこの際、早期に感染を抑えこまなくてはならない。といって経済の再活を停止するわけにも

いかない。コロナにも克つ、再活にも克つ、これが日本の役目だとすれば。今後、防止対策は一段と強まるものと覚悟しなければならぬ。外出は控え、移動も自粛ということになりかねない。

年よりは誰とも会わず、語らず、終日、家にとじこもってよいとでもいうのか。結局はストレスとなり、ヤル気を失い、絵の制作も止めるのが落ちだ。これではコロナに克つても自分に負ける。実はこれが一番怖いのだ。そうならないように私はお天気さえよければ一日一回、近くの公園に出かける。公園に入るとケヤキの大木にかまれた林道を歩き、広場に出る。

コロナ以前はサッカー、野球の少年たちでにぎわったのがウソのよう。ベンチに腰を下ろすとヒラヒラと黄色い落葉が頭上に降ってくる。広場は一面、黄色のジュータンをきつめたようだ。うっとり一時間ですごす。気が乗ればスケッチもしてみたくなる。寒ければ公園に行くのをやめて室内でテレビ体操をやる。とにかく体を動かすこと、これが一番だ。

私たちは、なんと少しでもコロナに克ち、自分にも克たねばならぬ。諸兄弟も身体に十分注意しつつ、コロナにも克ち、自分にも克つべく頑張ろう。いましばらくの辛抱だ。